

(一財) 自治体国際化協会 ロンドン事務所 マンスリートピック (2015 年 4 月)

【再開発が進むオリンピック・パーク ～ 選手村の住宅への転換、競技場の一般開放や「文化・教育地区」の創設など】

2013 年 10 月のマンスリートピック「大会終了から 1 年余、ロンドン・オリンピックのレガシー（遺産）形成の経過報告」¹では、ロンドン東部に位置するオリンピック・パークを含めた 2012 年のロンドン・オリンピックの会場が、大会後どのように使われているかを報告した。オリンピック・パークは、下記で述べるように、現在までに「クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク (Queen Elizabeth Olympic Park、QEOP)」に改称されている。本報告書では、大会後、「イースト・ビレッジ (East Village)」に改称された選手村を含むオリンピック・パーク内の施設の再利用について、前回のマンスリートピック以降、どのような進展があったかを時系列で報告する。

2013 年 11 月	<p>イースト・ビレッジの選手用宿舎を約 2800 戸の住宅に改装する工事が終了し、最初の入居者が入った。イースト・ビレッジの住宅は、「トライアスロン・ホームズ (Triathlon Homes)」が提供する適正価格の (affordable) 賃貸マンション 675 戸と中間価格帯の (intermediate) 賃貸または購入向け住宅 704 戸、「ゲット・リビング・ロンドン (Get Living London)」が提供する市場価格の賃貸用住宅 1439 戸で構成されている²。</p> <p>「トライアスロン・ホームズ」は、住宅組合 (housing association) と民間企業のパートナーシップである。「住宅組合」は、公営住宅の供給を担う民間の非営利団体で、地方自治体の住宅サービスを補完する。「ゲット・リビング・ロンドン」は、カタールの政府系投資ファンドであるカタール投資庁が所有する不動産投資会社「カタール・ディアル」と、英国の不動産会社「デランシー (Delancey)」が設置した民間会社である。</p>
2013 年 12 月	<p>財務省が「2013 年秋季報告書 (Autumn Statement 2013)」を発表し、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドン (University College London、UCL) とビクトリア・アンド・アルバート博物館 (Victoria and Albert Museum) とのパートナーシップで、オリンピック・パーク内に「高等教育と文化のエリア」を誕生させるというロンドンレガシー開発公社 (London Legacy Development Corporation、LLDC) とロンドン市長の計画を支持すると述べた。ロンドンレガシー開発公社は、オリンピック・パーク及びその周辺地域の開</p>

¹ http://www.jlgc.org.uk/jp/information/monthly/uk_oct_2013_01.pdf

² 「適正価格の (affordable)」住宅とは、市場価格より安く、比較的賃貸または購入し易い住宅を一般的に呼ぶ呼称である。「中間価格帯の (intermediate)」の住宅は、政府が 2012 年 3 月に発表した「全国都市開発計画指針 (National Planning Policy Framework)」によると、「購入または賃貸用の住宅で、公営住宅よりは高いが、市場価格よりは安い」住宅である。

	<p>発に責任を有する組織である。</p> <p>この計画の正式名称は「文化・教育地区 (Culture and Education Quarter)」であるが、通称で「オリンピコポリス (Olympicopolis)」の創設プロジェクトとも呼ばれている。これは、19世紀に、ビクトリア女王の夫アルバート公が、ロンドン中心部サウス・ケンジントン地区に博物館などが並ぶ文化と教育の中心地を創設したことから、この一帯が通称で「アルバートポリス (Albertopolis)」と呼ばれていたことにちなんでいる³。</p>
2014年3月	<p>ロンドン・オリンピックで競泳及び飛込み競技の施設として使われたオリンピック・パーク内の「ロンドン・アクアティクス・センター (London Aquatics Centre)」が、一般市民向けのスイミングプールとして再オープンした。運営団体はグリニッジ・レジャー社 (Greenwich Leisure Limited)」。グリニッジ・レジャー社は、ロンドン・オリンピックでハンドボール、フェンシング等の競技場として使われていたオリンピック・パーク内の会場「カッパー・ボックス (Copper Box)」の運営主体でもある。さらに、オリンピック・パーク内の自転車競技施設「リー・バレー・ベロパーク (Lee Valley VeloPark)」も、一般市民向けの施設として再オープンした。運営団体はリー・バレー地域公園局 (Lee Valley Regional Park Authority)。</p>
2014年4月	<p>オリンピック・パークが、大会後の改修と造園作業を終えて、地域コミュニティのための緑地スペース「クイーン・エリザベス・オリンピック・パーク (以下「QEOP」という)」として再オープンした。</p> <p>「金融行動規制機構 (Financial Conduct Authority, FCA) が、ロンドン東部カナリー・ウオーフ地区から、QEOP 内の「インターナショナル・クォーター (International Quarter)」に事務所を移転する計画を明らかにした。</p>
2014年5月	<p>ロンドン交通局 (Transport for London, TfL) が、同じく QEOP 内の「インターナショナル・クォーター」に本部を移転する計画を明らかにした。</p>

³ 「アルバートポリス」については、2012年2月のマンズリーピック「博物館が並ぶ西ロンドンの『文化通り』が歩行者と車の『共有空間』に生まれ変わる」を参照。

<http://www.jlgc.org.uk/jp/wp-content/uploads/2014/06/mtopic201202e.pdf>

2014年7月	<p>ボリス・ジョンソン・ロンドン市長が、QEOPに最も近い3つの駅であるストラットフォード（Stratford）駅、ストラットフォード・インターナショナル（Stratford International）駅及びストラットフォード・ハイストリート（Stratford High Street）駅のゾーン分けを変更することを明らかにした。2016年1月から、これまでの「ゾーン3」から「ゾーン2/3」に変更される⁴。</p> <p>ロンドン東部に位置する劇場「サドラーズ・ウェルズ・シアター（Sadler's Wells Theatre）」が、QEOP内の「文化・教育地区」に、ダンス公演に特化した新しい中規模劇場をオープンする計画を発表した。</p>
2014年10月	<p>「トライアスロン・ホームズ」がイースト・ビレッジで提供する675戸の適正価格の賃貸用マンションが全て埋まった。</p>
2014年12月	<p>財務省が、「全国インフラ整備計画（National Infrastructure Plan）」の一部として、QEOP内での「文化・教育地区」の建設に1億4100万ポンドを拠出することを明らかにした。</p> <p>ロンドン芸術大学（University of the Arts London）のカレッジの一つであるロンドン・カレッジ・オブ・ファッション（London College of Fashion）が、「文化・教育地区」に、2つのリサーチセンターを含む新しいキャンパスをオープンすることを明らかにした。</p> <p>文化・メディア・スポーツ省（Department for Culture, Media and Sport、DCMS）の「非省庁公的機関（non-departmental public body、NDPB）」⁵で、オリンピック・パークの建設を担っていた「オリンピック会場建設委員会（Olympic Delivery Authority、ODA）」が解散した。</p>
2015年1月	<p>米国のスミソニアン協会（Smithsonian Institution）が、QEOP内に、同協会の米国外の初めての施設として、文化、芸術、科学関係等の収蔵品の展示施設をオープンすることを明らかにした。</p>

⁴ グレーター・ロンドン及びその周辺地域の公共交通料金は、これら地域を6つに分けた「ゾーン」ごとに設定されている。ゾーンの数字が低いほど、ロンドン中心部に近くなる。「ゾーン2/3」のように、2つのゾーンにまたがる駅は、2つのゾーンのうちのいずれかの料金が適用される。例えば、ストラットフォード地区の3つの駅の場合、「ゾーン3」から「ゾーン2/3」にゾーン分けが変更されるため、ロンドン中心部（ゾーン1）から電車に乗ってこれらの駅で降りると、料金計算上は「ゾーン2」で降車したとして認識され、これまでより安い料金で済むようになる。

⁵ 「非省庁公的機関」とは、政府の省の一部ではなく、ある程度の独立した立場を維持して、行政サービスの執行、特定の政策分野に関する政府への助言などを行う機関の総称である。

2015年2月	2015年秋のラグビー・ワールド・カップが終了した後のオリンピック・スタジアムの運営主体として、「VINCI スタジアム」が選ばれた ⁶ 。「VINCI スタジアム」は、フランス・パリ近郊に位置するスタジアム「スタッド・ドゥ・フランス (Stade de France)」の運営主体である。
2015年3月	<p>財務省が、2015年度予算の中で、ユニバーシティ・カレッジ・ロンドンの主導で進められている、QEOP 内での「インフラ施設・都市共同研究所 (UK Collaboratorium for Research in Infrastructure and Cities、UKCRIC)」の設置計画に1億3800万ポンドを拠出することを明らかにした。</p> <p>前述の「オリンピコポリス」のプロジェクトを支援し、QEOP とその周辺地域での芸術、文化関係のプログラムの開催を担う機関として、非営利団体 (NPO) の「未来のロンドン財団 (Foundation for FutureLondon)」が設置された。新団体は、これまで同様の役割を担っていた組織「レガシー・リスト (The Legacy List)」と合併した。</p>

⁶ オリンピック・スタジアムの再オープンは2016年であるが、正式な再オープン前の2015年秋に、ラグビー・ワールド・カップの会場として使用される。